

中国海軍陸戦隊の行動範囲の拡大

漢和防務評論 20160502（抄訳）

阿部信行

（記者コメント）

中国の海外基地の保護及び中国資本企業従業員及び家族の緊急撤収のため、中国海軍陸戦隊の任務の範囲が拡大しつつあります。
中国軍は「利益の国境」概念を主張し、中国の利益あるところに国境ありとし、中国海軍がそれを護衛するとの理論で海軍陸戦隊を充実しようとしています。米海兵隊にならった配備を求めているように見えます。
現在のネックは輸送能力と護衛戦力ですが、中国は現在4万トン級の強襲揚陸艦の建造を検討している可能性があります。

2016年1月、中国海軍陸戦隊は、西部の砂漠で演習を行った。西側は注目した。これは、明らかに海軍陸戦隊があらゆる地形、特に砂漠地帯での作戦に慣熟するための演習であった。中国中央テレビの報道によると、海軍陸戦隊は、鉄道、道路を利用して5000 kmの長距離機動を行った。同陸戦隊は、05型水陸両用戦車を使用して機械化進攻訓練を行った。05型水陸両用戦車は30 mm機関砲或いは100-105 mmライフル砲を装備しており、陸上でも海上でも機動性が高い。陸上での速度は時速60 km、海上では時速26 kmである。また演習の映像には、陸戦隊が使用するHJ-8型対戦車ミサイルが出現した。武器の塗装色は砂漠の土色である。海軍陸戦隊は、要求レベルが高く、全天候、全地形での作戦能力がある1個特戦団を有している。今回演習を行った部隊は、この部隊であろう。

人民解放軍機関紙「解放軍報」は、2010年から記事で”利益の国境”概念を提起しており、”中国の利益の国境がどこにあると、海軍はそこに進出し利益の国境を守る”と主張し、本誌が注目していた。

實際上、中国空軍の第15空挺降下軍は、最近5年間、各種地帯での演習を明らかに増加させている。官側の報道写真を見ても、砂漠地帯での空挺降下演習を行っている。

中国海軍陸戦隊は、如何なる軍事理論、如何なる戦略意図の下に、砂漠地帯での演習を行っているのだろうか？何処に出兵するのか？後方支援能力はあるのか？

KDRが推薦する出版社の図書に、「実戦に着眼した軍事訓練シリーズ」という軍事叢書がある。この軍事叢書のなかに、”実戦的な軍事院校教育””実戦的な作戦指揮””実戦的な軍民融合”等々の名の付いた書がある。長年中国軍の資料を閲覧している著者は、そのなかにある事実を発見した。それは、従来公表していなかった諸々の中国軍の軍事学説がこれらの叢書のなかに公表されていることである。特に注目すべき学説は、戦いに勝つためには、9種類の聯合作戦能力を高めなければならないとする学説である。作戦能力それぞれについて本誌は個別に議論する。”戦略輸送

能力”について、同叢書は、次のように書いている。「(我軍)は、作戦戦力を東南沿海方向、西南方向、及び第一列島線内の重要地域(海域)へ迅速に輸送する能力を具備する。またアフリカ、中央アジア、ラテンアメリカ等の地区へは、”戦争に至らないレベルの軍事行動”のための武装集団を輸送する能力を逐次具備する」と。遠洋護衛能力に就いては、「遠洋海上運輸のために”無害通航”を護衛できる能力を提供する。必要時には第一列島線付近の重要海峡、重要水道の局地的支配権を迅速に奪取し有効に保持できる能力を具備する。これを基準にして、遠洋海域において一定規模の防衛作戦が実施出来る能力を逐次具備する」と。このことから戦略輸送の範囲は、全球規模であることが分かる。解放軍報記事中の”利益の国境”説と結び付けると、中国海軍陸戦隊が砂漠を想定した地域に出現した理由が分かる。

ここで中国のいわゆる”利益の国境”説を詳しく説明する。

1960年代、当時ソ連のフルシチョフは、”社会主義の新たな国境”説を提議した。海軍司令ゴルシコフ元帥は、さらにソ連海軍を五大洲、四大洋の隅々まで進出させるべきであると主張した。中国の”利益の国境”説は、いわばこの説に倣ったものと言うことができる。

中国の利益とは何か？軍隊及び外交部門の公開文書、及びスポークスマンが何度も説明した内容は基本的に一致している。”核心的利益”とは：台湾、南シナ海を指す。東シナ海尖閣群島／釣魚島は核心利益なのか？と提議されたことはあったが、しかしその後公式に提議されたことは無い。

イラン、北朝鮮の核兵器が何度も反復問題化された時期に、中国外交官は”重要な利益”の言い方でこの二つの地区を説明したことがある。

したがってイラン核問題での中国の立場は、斡旋には積極参加するが直接介入はしないとの立場だ。

中国は”重要な利益”であれば、”利益”さえあれば、”利益の国境”に繰り入れるのだろうか？真実か？

中国の実際行動から見ると、中国がジブチに海軍基地を建設したこと、及びソマリアでの海賊対処活動から、中東には確かに中国の”重要な利益”が存在する、と見ることが出来る。

中国のいわゆる”重要な利益”は、主として以下の内容を含んでいる：

一、”エネルギー確保”に直結すること。イラン、サウジアラビア、アンゴラは、すでに中国の重要な石油供給国になっている。”水道を支配する””局地の支配権を獲得する”との言い方には特に注意する必要がある。第一列島線内の水道とは、当然マラッカ海峡が第一に挙げられよう。次に中国の軍事力が中東及び湾岸に出現したことは、ワシントンと同様に中国もホルムズ海峡の航行安全に関心を持っていることを示している。

二、投資に関わること。中国石油化工集团公司は、北アフリカ、中東、特にエジプト、イラン、アルジェリア、モロッコでの油田、ガス田、各種鉱区への投資活動が

盛んである。それにしただってこの地域での中国人の数が大々的に増加している。三、海外軍事基地を保護すること。第一は、ジブチの中国海軍基地である。今後は、これらの基地の保護は、海軍陸戦隊の主要任務になる。基地の租借条約期間内においては、如何なる国からの攻撃であっても、一旦攻撃を受けた場合、武力衝突の可能性が存在する。

上述の”戦略輸送能力”の必要性から見ると、中東、アフリカだけでなく、中央アジア、ラテンアメリカもまた中国海軍戦力が投入される”新たな国境”である。中央アジア、ラテンアメリカは中国のエネルギー提供地区である。KDRの予測では、今後10年、中国はまた更に多くの国家に”ジブチモデル”の海外軍事基地を建設し海軍陸戦隊がこれらの基地に進駐する。

”重要な利益”と海軍陸戦隊の砂漠進出は如何なる関係があるのか？後者の作戦想定は以下の形式になる可能性がある：

一、中東、北アフリカ、アフリカの中国資本エネルギー基地が地域の衝突、テロ襲撃を受けた場合、直ちに保護する必要がある。現在先例はない。

二、華僑の大規模撤収の場合、すでに先例がある。同様に海軍陸戦隊、空軍降下兵所属のIL76輸送機が真っ先に駆けつけた。

三、中国の海外軍事基地は、テロリズム及び現地過激派の攻撃を受ける。もし中国と米国の全面衝突が発生した場合、これらの基地も当然米軍の重要攻撃目標になる。

”戦略輸送問題”を論じた上述の書に話を戻す。この著書から中国軍は、2つの段階に分けて”戦略輸送”能力の建設を考えている。第一段階は、：”東南沿海方向、西南方向及び第一列島線内の重要地（海）域へ聯合戦力を速やかに投入できる能力を具備すること”である。3つの方向は、西南方向だけでなく全て海軍陸戦隊の作戦区域である。

西南方向の砂漠地区は、当然インド・パキスタン国境である。伝統的にインド・パキスタン問題には中国の直接利益は存在しなかった。しかも”重要な利益”の範囲にも含まれていなかった。西南方向は、当然ミャンマー、ベトナムが含まれる。特にベトナムは、依然として中国の宿敵である。一旦戦いになると、陸地での軍事行動だけでなく、中国海軍陸戦隊は争いのある島嶼において、或いはベトナム沿岸への上陸作戦を行うことが完全に可能だ。

第二段階の建設については、”逐次、アフリカ州、中央アジア、中東、ラテンアメリカ等の地区への戦争に至らないレベルの軍事行動を遂行する武装戦力を投入できる能力を具備する”と述べている。

いわゆる”戦争に至らない軍事行動”とは現在の「軍事用語の解釈」によると、災害救助、対テロ、反分裂、暴動鎮圧（いわゆる反革命暴動鎮圧）行動等が含まれる。しただって海軍陸戦隊が実施する砂漠での作戦訓練とは、上述地区で実施する”戦

争に至らないレベルの軍事行動” の能力である。

現在の中国海軍陸戦隊の” 戦略輸送能力” に照らせば、砂漠での戦闘訓練は、中東及び北アフリカ地区で実施する小規模な” 戦争に至らない軍事行動” の要求を満足させることができる。すなわち現地政府、国際社会の政治的、外交的支持の下、華僑の迅速な撤収行動が可能であり、現地で内乱が発生した場合など中国資本企業の” 人質解放作戦” を実施することが出来る。すなわち一定程度のレベルで、中国資本企業の短期的な保護、海軍基地の安全確保を実施することが出来る。

” 戦争レベルの軍事行動” ができる海軍陸戦隊を配備するためには、強大な海軍航空兵部隊による航空戦力支援と大規模な海上輸送支援が必要である。中国海軍陸戦隊は、今後相当長期間、米国海軍陸戦隊レベルの海外作戦能力を具備することは不可能である。

中国海軍陸戦隊の現在の遠洋戦略輸送能力は、主として 4 艘の 071 型大型ドック型揚陸艦になる。この揚陸艦は満載排水量 2 万トン、4 艘の 80 トン級エアクッション艇、30 両の装甲車両、2 乃至 4 機の Z-8 型ヘリを搭載する。4 艘の 071 型揚陸艦が 1 度に出撃すると、1 個機械化陸戦団を上陸させることができる。空中からの掩護能力は極めて弱体で、せいぜい少数の武装ヘリしかなく、対空防御は肩打ち式地对空ミサイルのみである。10 年後に最初の空母編隊が就役すれば、遠洋戦略輸送能力は、” 限定的戦争軍事行動” を伴った遠洋上陸作戦ができる能力を具備する可能性がある。

同様な上述” 戦略輸送能力” 建設の要求に基づいて、中国海軍は 4 万トン級の強襲揚陸艦の建造を検討している可能性がある。たとえ完成しても、就役までに 10 年はかかる。しかも艦載攻撃機はどうするのか？中国海軍の Z-10 型武装ヘリに対する考え方から見ると、第一段階は武装ヘリを配備する可能性がある。

しかし中国海軍の近海輸送能力は 4 艘の 071 揚陸艦の完全就役によって大々的に強化される。特に、台湾海峡東岸への上陸作戦能力が大幅に高まる。すでに” 戦役” レベルの作戦を実施出来る。特に多くの第 3 世代長距離戦闘機が続々と就役する状況下では。

以上